

## 地方自治ここにあり 首長インタビュー

# 「稻むらの火」を引き継ぎ、防災対策と 「楽しく誇りの持てるまちづくり」

鹿川町 樞原淳奈 町長



樺原広川町長

く務められ、広川町に精通されている町長ですが、大事にされていることは、

**町長**：やつぱり、一番大事にしているのは、町民のご意見です。議員の時からも、本当に身近な困りごとを聞いてきました。その延長線上に町長はいると思っています。町民の方は、「こんなことをやつてほしい」と言つて来ます。それをいち早く課長らと協議して返事をして、出来ることは早急に進めるようになります。

**山下**：町民として、ありがたいのですが、全て要望どおり

昭和の南海地震から79年。「稻むらの火」に由来した世界津波の日が制定されて10年。今回の「首長インタビュー」は広川町の樋原淳奈町長です。昨年11月、前西岡町長の逝去で行われた町長選挙で初当選されました。聞き手は地元の山下理事と大前です。

にならないのでは、  
町長：議員の時、町長に話を  
するときは、整理して話を持  
つていきました。住民の皆さ

分の思いの丈を述べていると思います。それをきつちり受け止めるのは、我々の仕事だと思います。

大前：町長になられて、現場の実際はどうですか。

いです。課長さん方と相談しながら、間違いない選択をしながらやっています。でもそれだけなら自分の意思もな

くなるので、やりたいことは執行部とも詰めて、徐々にですが、やつていこうとしています。

## 稻むらの火の思いを 引き継ぐ防災対策

## 令和の広村堤防ともいえる

鎮守の森は、今年の3月に90  
数メーターを整備しました。

西岡前町長が企画をして、私

が事業をさせていただきました。これを守つて未来の子孫たちに残していく、広村堤防あつての広川町だと思つています。濱口梧陵さんの功績は非常にありがたくて、これを守つていきたいと考えています。

いうのがあるので、その方が  
ちが埋め立ての陸閘門を閉め  
るという事から津波対策は始  
まるのです。3、4人ぐらい  
が担当していると思うのです  
が、全員が被災してしまった  
ら、閉めに行く術がなくなり  
ますので、そこらへんは対応  
を検討しなければと考えてい  
ます。

をしており、大津波警報を受信したら自動で閉鎖する予定です。ただ、感恩碑前の防波堤の陸閘門は、道路を遮断して閉めるので、車などの安全確認が必要なのです。

庄川町は、庄村から始まって、800年ぐらいの歴史があるのです。昭和21年の南海地震が来るまでの663年間の間に、何回も災害が来ています。

間に8回津波が来ていました。それを単純に割つたら、84年には1回来ています。昭和21年からもう79年経つているのです。

山下：いつもおおかしくな  
いということですね。

**町長**：それを皆さんに、自分の命は自分で守ってほしいと、なつかつ避難できた方は、被



## 鎮守の森のプロジェクトの「令和の大堤防」

災者を助けに行つてほしいと  
自分の命が最優先なので、危  
険でない対応をしてほしいと  
は思つてゐるのですが、それ  
を私はいろんな会合のたびに  
言つてゐるのです。チーム広  
川で1人の犠牲者も出さず  
この災害を乗り越えられたら  
というふうには思つてゐる  
ころです。

ハード面では、県が湯浅広  
湾の一文字堤防の補強工事を  
行つています。消波ブロック  
通称テトラポッドを、唐尾漁  
港で作つていただいています  
現状なら、津波時に倒される

あとは、トイレカーを1台購入する予定にしています。これも1000万円ぐらいです。ですが、身体の不自由な方、障害を持つている方に対してのトイレカーと思つていて、他の健常者の方には簡易トイレのラップポンといふのがあつて、普通に便座に座つて、袋になつて用を足したら、圧着して処理する。また、プライバシーを守るためにパーテーションや段ボールベッドも購入を予定しています。避難施設で少しでも快適に過ごせるようになると考えていきます。

**大前**：先ほどお聞きした鎮守の森はどのようなものですか。  
**町長**：「公益財団法人鎮守の森のプロジェクト」という団体があつて、その団体の方が広川町で堤防を作れば植栽しますという提案があつたのです。これに前西岡町長が共感しますして、ぜひやつてほしいと。耐久中学校の前に土手を作り、5000本程植栽してくれたのです。私は令和の大堤防と呼んで広村堤防とともに、守つていこうと思っています。  
ここは昭和21年の南海地震

合同会社寺田と災害時にドローンで撮影してもらう協定を締結しました。その辺も上手に活用できたらと思つています。

その足元へテトラポッドを設置する予定になっています。山下：一文字堤防は台風で動いたと聞いたことがあります。町長：また、避難施設が12あるのですが、避難所にトランシーバーを置いて、携帯電話が通じなくなつても、いち早く我々と連絡できるようになります。町の幹部が6人持つようにしよう思っています。使えなければ意味がないので、避難訓練時に説明をしつかりするつもりです。

緒にいると、パニックを起こして、居づらくなつたので、障がい者の方が避難できる場所が欲しいのですと要望があつて、それも今、検討中です。この時は、警報中でも、浸水地域にある自宅へ帰つたといふことがあつて、大きな津波が来ていたら、その方らの命がどうなつていてかわからぬので、そこらへんも安心して避難できるような対応をしなければと思つています。

山下：一時期、「稻むらの火」の話が教科書から消えた時期があつて、中学校ぐらいの時に先生が冊子を作つて教えてくれました。そこから「稻むらの火」を復活させようというような話もありました。

町長：教科書へは、また載つているようですね。それを伝える「稻むらの火の館」に、雑賀さんという館長さんがいまして、ものすごくいい講演をしてくれます。ぜひ聞きに来ていただいたら。お寺の住

の時に、津波が江上川を遡上して、日東紡績で亡くなつた方がおられ、耐久中学校も被災したと聞いたので、この堤防が江上川に向かつて長くなつたので、少しは防波堤の役割を果たせるかなと思います  
**山下**：いま大事にしたいのは「稻むらの火の館」を中心にして、津波の教訓を伝えていくということなのかなと。なぜ町が防災に力を入れているのかを歴史を知らないとわからない子どもたちが勉強して、ガイドもしているそれを広げていただいたらと思うのですが。  
**町長**：そうですね。子どもたちも、「稻むらの火の館」来客者に教えるぐらいの知識を持つ子もいてものすごくあり

## ふるさと納税で農業振興の好循環

町長：私も農林水産業の支援を出来る限りしていきたいと思っています。ただその財源を考えないといけない。ふるさと納税は広く使えます。有田ということで、みかんの寄付額が大きいのです。みかんの寄付額は、農業の方が努力をして、寄付額を増やしてくれている。その分を農業に還元するのが、好循環を生むと思っています。

もちろん、林業や漁業も支援をしていきたいと思つていいまして、みかんの寄付額が増えた時にそういうた還元をしやすくなると思うのです。それを「らくらく農業」と言つ

大前：産業振興やまちづくりで、以前、広川町の職員さんは、農業を守らないと長期的に地域を維持できないと話していましたが。

## ふるさと納税で農業振興の好循環を



津波防災教育センター「稻むらの火の館」

てスプリンクラー助成とかモノラック助成などをしています。しかし今は、モノラック助成などはしていません。大前：なくなつたのですね。町長：それで、これを復活させてほしいという要望がすごく出ていて、そのためには、財源を増やしたいと思っています。この好循環が生まれたら、そういうことをやつてみたいと思っています。

山下：昔広げたみかんのパイロット事業の明神山の山手、上の方は鳥獣被害でやめていく、自然相手の動物やからどうしようもないというのもあ

ります。この好循環が生まれたら、そういうことをやつてみたいと思っています。

山下：昔広げたみかんのパイロット事業の明神山の山手、上の方は鳥獣被害でやめていく、自然相手の動物やからどうしようもないというのもあります。

町長：獣友会も駆除を行つてくれているのですが、いたちも大変です。

町長：獣友会も駆除を行つてくれているのですが、いたちも大変です。

大前：結構捕つてはくれているので、結構捕つてはくれているのです。

町長：獣友会が、高齢化していますよね。

町長：若手の方を育てるために、新規の方に、補助や支援はしているのですけども、ただ、命の断つような事は大変だと思います。

大前：時々、熊も出てくるのですよね。

町長：日撃情報まではないのですが、2、3日前にも、津木地区で熊らしきものがいたと。それで女性が逃げようとして転倒し怪我をしたという事がありました。私も広川ビーチ駅近くの道路で、車で猪と出会い頭にぶち当たつて、修理代が40万円かかりました。猪は光に飛び込んでくるのでかわすことができなかつた。結構大きくて、足を引きずつて山へ戻つていきました。

山下：もう山手では農業できないから、年配の人は特に山手の農地は耕作放棄してしま

るけれど、フェンスの補助を受けて、みんなやつてているけども大変です。

町長：獣友会も駆除を行つて、結構捕つてはくれているのです。

大前：その獣友会が、高齢化しています。

町長：そうです。開墾せんとあかんので、その分の補助をしています。この間、申請を見たのですけども、若手の方

が申請されていて、自分で一から育てていきたいというのがあるようです。

大前：有田地域では、有田川町が消滅自治体から脱却したとか言われましたが、広川町も人口は減っていますが、減り、視野が広くなったりします。海外の文化を体験するので、人を育てると思うのです。まあ、一足飛びにはいかないのですが、行つた子らはものすごく喜んでいます。やっぱ

り、担当課とか関係なく、横断的に集まつて、子どもを産む障害は何なのか、育てる支援はどうすればいいのか、そういう研究をしてくれています。

町長：担当課とか関係なく、横断的に集まつて、子どもを産む障害は何なのか、育てる支援はどうすればいいのか、そういう研究をしてくれています。

それで、やりだしたのが、子どもさんが生まれ、出生届の時に感謝状を贈る取り組みです。私が在庁の時は、直接渡しています。ミキハウスという子ども服メーカーと提携を結びまして、1万円程度の子育てに必要な品物、食器とかバスタオルや洋服などを選んでもらつて、それもお渡ししています。

山下：それはいいと思います。では、若い夫婦が、広川町へ生まれてありがとうと。滋賀

町長：それだけ被害が大きくなりました。広川町も、遊休農地を再開発したら、農地リボーン補助金という制度があるのです。前町長の時に、「らくらく農業」のスプリンクラーとモノラックの補助をやめて、そつちへ力を入れ直したのです。

山下：そういう場所があれば、新しく苗木を植えて意欲が出てくるしね。

町長：あかんので、その分の補助を対象に募集をして、12、3人が10日間行つてホームステイしてきます。

町長：修学旅行も2分の1助成していますし、国際人材育成事業の助成では、今年は力ナダのバンクーバーで中学生を対象に募集をして、12、3人が10日間行つてホームステイしてきます。

山下：うちの息子も行かしてもらつたけども。社会経験を積んできました。

町長：行く年によつても違うのですが、行つた子らはものすごく喜んでいます。やっぱ

り、担当課とか関係なく、横断的に集まつて、子どもを産む障害は何なのか、育てる支援はどうすればいいのか、そういう研究をしてくれています。

山下：町外からの移住という縛りを設けていますが、それが緩和も検討課題です。

山下：3軒でも住みだしたら、また口コミで広がるから。

町長：町外からの移住という縛りを設けていますが、それが緩和も検討課題です。

山下：3軒でも住みだしたら、また口コミで広がるから。

前から、子育て支援を頑張ってきました。多分県下でも5本の指に入るぐらいの支援、助成をしていると自負しています。私が町長になつて始めたのは、中学校卒業祝い金で3万円を支給しています。

大前：修学旅行の助成金もありますね。

町長：それだけ被害が大きくなりました。広川町も、遊休農地を再開発したら、農地リボーン補助金という制度があるのです。前町長の時に、「らくらく農業」のスプリンクラーとモノラックの補助をやめて、そつちへ力を入れ直したのです。

山下：それはいいと思います。では、若い夫婦が、広川町へ生まれてありがとうと。滋賀



ピロティ構造で改築された広小学校（避難所）

県なんかは県全体でやっているようです。いろんな業者が提供するということで、オムツとか、子育てに必要なものを使います。

町長：あと、一番初めにしないといけないのは耐久中学校の移転だと思っています。さつきも言つたのですが、津波の浸水地域にありますので、高台移転が子どもを安心して育てる親御さんの思いだとつくついています。校舎も60年以上経っています。これを建て替えて、また、津木中学校

は生徒は10人程度で、建物も古いのです。これも一緒に考えないといけないと思っています。

### 住民の声を聞きながらのまちづくり

大前：2006年に閉鎖した日東紡績工場の跡地の活用をどうするのか、住民アンケートをされたようですが。

町長：アンケートの回答はとにかく大規模商業施設、買い物の場が欲しいというものでした。私は、それはこの場所にこだわらなくていいのかなど思っています。食品スーパーなど買い物の場は、いろんなところを提供できたらと思っています。住民アンケートでは、商業施設が欲しいというので、イオンとかコストコとかの大規模商業施設というのが、商業施設のイメージだと思います。住民アンケートでは、商業施設が欲しいと有田郡市でも8万人しかいないのです。

ここは、津波の浸水地域でもあるので、見に来てくれる企業さんにも、後で騙されたとか言われてもいけませんので、先にきちんと説明しています。それで、周辺の浸水の

関係で、土地のかさ上げもやめてほしいと地元から言われています。広小学校の改築方法のピロティ方式、1階を柱だけで支えた空間を作つて、津波が来たら波が抜けるような構造で、その上に構造物を作つて工場なり飲食店、ス

パーなどをやつてくれる企業さんが一番いいと思っています。あとは、スポーツ施設とか公園とか防災施設とか、アシケート調査にもありましたので、そこを順番に進めていきたいと思っています。6万

平米もあつて広いので、どこかの企業が1社で使うのはないと思うのです。いろんな複合施設的なことも視野に入れながらやつていこうと考えていますが、アンケート調査結果が出て、9月に議会に報告させていただいたばかりなのです。

大前：西広海岸は子どもを遊ばすには最適な海岸ですね。町長：年間にすごくお客様が来ています。むちゃくちやいい場所で、あんな遠浅の海岸は日本有数みたいなのです。これもなんとか開発しては思っているのですが、どうしても時間がかかるところばかりです。

町長：やつぱり住民の方が楽しい広川町を目指して、今後とも行政をしっかりと前へ進めたいと思います。広川町に住んでいる方が楽しいと思ってもらわないと、それで誇りを持つて広川町はええ町だということを自慢できるぐらいのことをしていきた

ています。

山下：以前、研究所の鈴木先生と見に来て、案内していました。庭側からちよつと上がつたところが2階でそこへ上がつたら、特別室になつていて、すごい建物でした。

山下：以前、研究所の鈴木先生と見に来て、案内していました。庭側からちよつと上がつたところが2階でそこへ上がつたら、特別室になつていて、すごい建物でした。

町長：ただ、日東紡跡地、だけでなく、津木の南インターチェンジのところや、JR広川駅は出来て30年程たちますが周辺が少しも変わつてないでの、ここはもつと変えてみたいという思いがある

まつた。また、重要な文化財の濱口家の住宅の改修を昨年度から計画をしまして、今年度から実施していくます。重要な文化財ですので、国、県、町、持ち主の方の会社と組んでですね、15億円位かけて改修をする予定になつています。その完成が8年後の令和15年を予定しています。

大前：新たな感覚で広川町の振興を進めようというお話を聞かせていただきました。ご多忙中ありがとうございました。